

## 特別企画シンポジウム: COVID-19 感染症と透析医療の現状と今後

2020年1月に日本で初めての新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が発生されて以降、様々な対策にもかかわらず、現在1日7000人の新規発生者を認めるまでに至り、特に大阪では重症者が群を抜いて多いことなどから、医療現場の逼迫が大きな問題になっております。透析医療は一定の空間に一定の時間、同じ患者や医療スタッフが滞在して医療行為を行うため、飛沫、接触など各種伝搬経路による感染症の拡大、蔓延リスクが高いとされています。また透析患者は一般人口よりもCOVID-19感染症の予後が悪いことも示されています。世界各国でも透析施設での感染拡大予防のための様々な取り組みや指針がでており、本邦でも日本透析学会、透析医会、腎臓学会が合同でCOVID-19感染症に対して取り組み、実態の把握や感染対策の指針を示しています。大阪では大阪透析研究会と大阪透析医会が合同で委員会を立ち上げ、行政とともに感染症に対する取り組みを行っています。これらの中心を担っている先生方にCOVID-19の現状と今後についてご講演いただきます。